



スミダESGレポート

2025

編集方針

この「2025 スミダコーポレーション ESG レポ ー ト」は、スミダコーポレーションの CSR 活動の 概要をご紹介します。CSR に関する詳細な 情報は、当社ウェブサイト（www.sumida.com/ csr/）をご覧ください。本レポートにおける「スミダ」とは、スミダコーポレーション、スミダコーポレーションの100% 子会社、及びスミダコーポレーションの経営権を 有する会社を指します。

このレポートは、2025年1月1日から2025年12月31日の期間について書かれたものであり、2026年4月に発行されたものです。CSRに関連する活動を行う際には、社会的責任をスミダの価値観と 実践に組み入れるために、ISO26000のガイドラインを参考にしています。

本レポートに記載されている将来の見通しに関する記述は、発行時点における当社の予想及び仮定を反映したものです。これらの記述は、さまざまなリスクや不確実性の影響を受け、実際の結果が予測とは大きく異なる可能性があります。

本レポートに掲載されているESGデータは、報告基準、データ収集方法、その他の要因の変更により修正する可能性があります。データの質が時間の経過とともに向上した場合は、当社のウェブサイト上でESGデータを適宜更新します。当社は正確性と完全性に努めていますが、本データは確定的なものではなく、あくまでも指標とお考えください。

目次

会社紹介	1-10
業績概況	11-12
CEOメッセージ	13-14
CSR 活動報告	15-23
最新企業情報	24-25



“技術と人の架け橋”

先進的な磁気技術により、現代社会の電動化を支えます。

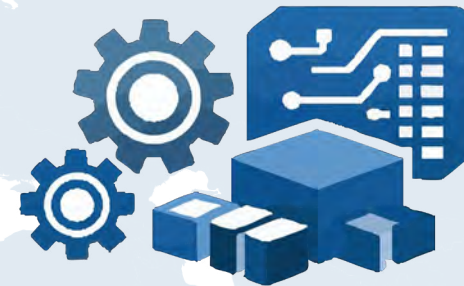
スミダグループは、現代の電子システムにおける効率的な電力変換を実現するコイル関連部品及びモジュールの設計・製造において、グローバルに展開するリーディングカンパニーです。高度なエンジニアリング力とカスタマイズ設計により、自動車電子機器、再生可能エネルギー、産業用オートメーション、デジタルインフラ、民生機器、医療分野等、幅広い用途を支えています。

スミダグループの主要製品は、パワーインダクタ、トランス、センサー、アンテナ等の磁気部品・モジュールであり、パワーエレクトロニクス、電気自動車、エネルギー貯蔵システム、再生可能エネルギーインフラ、データセンター用電源等に活用されています。また、磁気材料、セラミックス、フレキシブルコネクタ、電子機器製造サービス（EMS）等の関連ソリューションも提供しています。

アジアにおいて70年、欧州では90年以上の歴史を有し、アジア・欧州・北米に広がる研究開発拠点、生産拠点、営業ネットワークを通じて、グローバルに事業を展開しています。このネットワークにより、高品質・柔軟性・安定供給を維持しつつ、標準品とカスタム製品の双方を提供しています。顧客やパートナーとの密接な協働を通じて、より効率的で持続可能な技術の発展に貢献しています。



技術力とグローバル競争力



競争力あるソリューションプロバイダー

コア磁気部品から高付加価値の統合モジュールまで幅広く開発・製造。顧客との密接な連携と高度な技術力により、進化する電子システムのニーズに対応した最適なソリューションを提供しています。



幅広い用途への対応力

自動車、再生可能エネルギー、産業機器、デジタルインフラ、医療等多様な分野に対応。電動化・デジタル化の進展に伴う新たなニーズにも柔軟に適應しています。



コイル技術のリーディングカンパニー

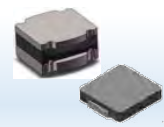
長年の経験に加え、設計・シミュレーション・製造技術を融合し、自動車・産業・エネルギー分野において高性能製品を開発しています。



グローバル展開 - Global Reach, Local Support

世界各地に拠点をもち、地域密着の技術支援と生産体制を提供。柔軟な供給と高品質を実現しています。

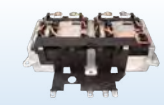
製品一覧



パワーインダクタ・RFインダクタ
面実装タイプ、ピンタイプ、デジタルアンプ用LPFコイル、巻き線チップインダクタ



センサ・アクチュエータ
ロータポジションセンサ、ABS コイル、ソレノイドコイル



車載用モジュール
トランス・チョークモジュール、電気機械式及び機能統合型モジュール、コンポーネント・キャリア、パワー・コンバージョン、コンポーネント&モジュール



EMI / EMCフィルタ
DCラインフィルタモジュール、ACフィルタモジュール、CMC・DMフィルタチョーク



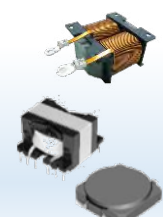
医療機器用コンポーネント
通信用アイソレーショントランス、アイソレーショントランス



電力業界向け製品
変圧器（最大5.5トン/3MVA、水冷設計を含む）、（水冷）チョークコイル、AFEフィルタ（アクティブフロントエンド）、DABおよびLLC向け中周波/高周波変圧器（最大6kV部分放電対応）、LC/LCLフィルタ、アクティブ冷却インダクタ



シグナルマグネティクス
RF/通信、RFID、アンテナコイル、他



パワートランス・リアクトル
面実装タイプ、ピンタイプ、PoE トランス、ストロボ用昇圧トランス、スイッチング・パワーサプライ、リアクトル、非接触給電コイル



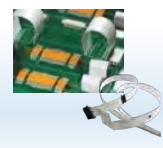
EMC・チョーク
ACパワーライン、DCパワーライン、ノーマルモードチョーク、コンモードチョーク



電流検出コンポーネント
電流トランスとモジュール、ロゴスキーコイル



磁性材料
フェライト、プラスフェライト、金属粉末コア、射出成形フェライト



フレキシブルコネクション
フレキシブルフラットケーブル、フレキシブルボードコネクション、セルセンシングシステム



電子製品製造サービス (EMS)
PCBアセンブリ、モジュール製造、テストプロシージャ

重点分野



ソレノイドとアクチュエータ

Lithium-ion Battery Pack



車電池/パッシブエントリー



E-モビリティ



ソーラーシステム



工業/医療



省エネルギー/LED



インフラストラクチャー



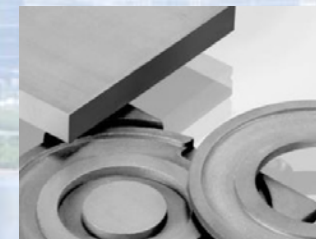
インフォテインメント



家電製品

“技術と人の架け橋”

開発技術



素材・材料技術



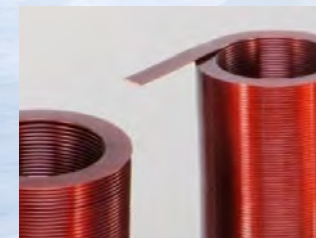
デザイン&アプリケーション



生産技術



精密加工技術



巻線技術 (中核技術)



成形技術



複合技術



評価技術

会社概要

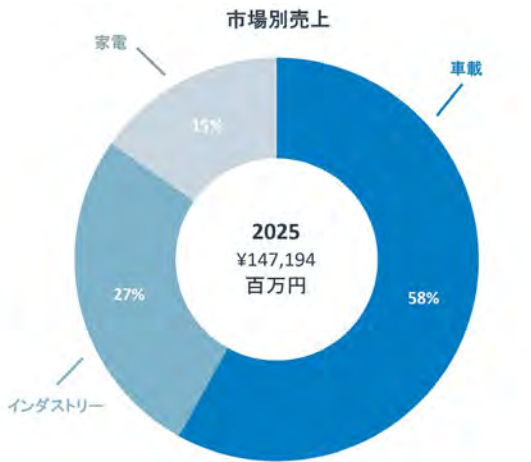
	持株会社	スミダコーポレーション株式会社； 東証プライム市場（code：6817）
	代表者（CEO）	堀 寛二
	本社	〒104-0042 東京都中央区入船三丁目7番2号 KDX銀座イーストビル7階 Tel: 03-6758-2470 Fax: 03-6758-2472
	設立	1956年（昭和31年）1月16日
	資本金	13,631百万円（2025年12月31日現在）
	連結売上高	147,194百万円（2025年12月31日現在）
	従業員数	14,964名（2025年12月31日現在）
	開発拠点	日本、中国、 アメリカ、ドイツ
	営業拠点	日本、中国、 香港、シンガポール、台湾、タイ、韓国、アメリカ、ドイツ、インド
	生産拠点	日本、中国、 ベトナム、タイ、メキシコ、ドイツ、ルーマニア、スロベニア、チェコ共和国、 アメリカ
	事業内容	電子部品及びモジュールの研究・開発・設計・製造 ・ 販売

業績概況



	(単位：百万円)	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
売上高又は売上収益		104,920	138,600	147,672	143,978	147,194
営業利益		5,326	8,189	8,564	4,513	7,439
売上高営業利益率又は売上収益営業利益率		5.1%	5.9%	5.8%	3.1%	5.1%
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社の所有者に帰属する当期利益		2,629	5,099	5,064	590	3,618
1株当たり当期純利益又は基本的1株当たり当期利益		97	188	167	18	109.47
総資産又は資産合計		117,725	134,846	142,786	147,766	163,656
純資産又は資本合計		40,101	48,877	57,312	60,915	65,354
1株当たり金資産額又は1株当たり親会社帰属持分		1,409.82	1,722.08	1,687.39	1,774.64	1,875.53

証券コード:		6817
上場証券取引場所:		東証プライム市場
決算期:		12月31日
定時株主総会:		3月
権利行使基準日:		12月31日
一単元の株式数:		100 株
配当金支払い基準日	中間:	6月30日
	期末:	12月31日



GLOBAL REACH, LOCAL SUPPORT

S 販売

10カ国に23の営業拠点

- アジア15拠点
- 欧州5拠点
- 北米3拠点

M 製造

10カ国に24工場

- アジア14工場
- 欧州8工場
- 北米3工場

R 研究開発

4カ国に11の研究開発センター

- アジア5拠点
- 欧州4拠点
- 北米2拠点



日本：70年の歴史
中国：40年の歴史
ドイツ：90年以上の歴史

従業員数

アジア・パシフィック事業	12,408
EU事業	2,467
全社（共通）	89
合計	14,964

凡例

- H 本社
- S 販売
- M 製造
- R 研究開発

グローバル展開

CEOメッセージ

70年の革新の歴史 — 持続可能な成長の次のステージへ

創業70周年を振り返って

本年、スミダグループは創業70周年を迎えました。この節目は、世界中の顧客、ビジネスパートナー、株主の皆様からの継続的なご信頼とご支援の賜物であり、心より感謝申し上げます。

1956年の創業以来、スミダグループはコイル関連部品及びモジュールの開発を通じて、幅広い用途に対応しつつ社会とともに成長してまいりました。継続的な技術革新と顧客との緊密な協働を通じて、品質・信頼性・信頼関係に基づく強固なパートナーシップを構築してきました。

2025年度の業績及び主な成果

2025年度において、スミダグループは着実な進展を達成しました。連結売上高は1,471億円（前年比2.2%増）となり、営業利益は74億円（前年比64.8%増）へと大幅に増加しました。

この業績改善は、とりわけ欧州における構造改革の着実な実行及び中国における製造コスト最適化の継続的な取り組みの成果によるものです。これらは中期経営計画2024-2026のもとで推進されたものであり、コスト構造の強化、業務効率の向上、そして持続的成長に向けたより強固な経営基盤の確立につながりました。

同時に、買収を含む戦略的施策を通じて事業ポートフォリオの拡充も進め、急速に転換するグローバル環境の中でのレジリエンスと効率性を一層強化しました。



2024

Transformation

2026

Growth

2025年度のハイライト

1,471億円
売上高 (+2.2% YoY)

74億円
営業利益 (+64.8% YoY)

109.47円
EPS

394億円
内、グリーンエネルギー関連売上

事業基盤の強化

中期経営計画2024-2026において、スミダグループはグリーンエネルギー関連事業を成長の柱として位置づけ、売上及び収益の大幅な拡大を見込んでいました。

しかし、2024年初頭以降、欧州におけるEV補助金の終了や米国の環境政策の転換等により外部環境は急速に変化し、プロジェクトの遅延や需要の想定未達が生じ、業績への下押し圧力が高まりました。

こうした状況を受け、スミダグループは組織再編を進めるとともに、インダストリー関連分野への注力を強化しました。さらに、2025年10月にドイツのSchmidbauer 社を買収したことにより、事業基盤の強化を図りました。

これらの取り組みにより、スミダグループの事業基盤は安定化し、次なる成長ステージへの準備が整いました。

将来に向けて（2035年ビジョン）

事業基盤の強化を踏まえ、スミダグループは将来に向けた取り組みを本格化させています。2035年に向けて、「複数のニッチ分野でトップポジションを確立する」ことを目標に掲げています。

これは、規模の拡大のみを追求するのではなく、スミダグループの技術力とグローバルな強みを活かして差別化価値を提供できる領域に注力することで、持続的成長を実現するという考えに基づいています。

脱炭素化、AI需要の拡大、地政学的変化、人口動態の変化といったメガトレンドは、電動化の加速とともに、エネルギーインフラ、データセンター、輸送、医療等の分野における需要を拡大させる一方で、競争環境も一層激化させています。

こうした環境変化に対応するため、スミダグループは「ニッチトップ戦略」を推進し、資本効率の向上、メガトレンドに沿った成長機会の獲得、独自技術による新規事業領域の創出に取り組んでいます。

また、スミダグループの技術力、グローバル展開力、「Made in Market」戦略を最大限に活用し、差別化されたソリューションの提供と、高品質で持続可能な収益基盤の構築を目指します。

2035年に向けたスミダグループの歩みは、戦略的集中、技術的リーダーシップ、そして長期的な企業価値創造によって支えられています。



変革から成長へ（中期経営計画2026-2028）

このビジョンの実現に向け、スミダグループは2026年から2028年を対象とする新たな中期経営計画を策定しました。本計画は、これまでに構築してきた基盤を土台として、「変革」から「成長」への明確な転換を示すものです。

電動化、再生可能エネルギー、デジタルインフラといったグローバルなメガトレンドに伴う成長機会の獲得を重点テーマとしています。

本計画においては、2028年度までに以下の目標を掲げています：

- 売上高：1,650億円
- 営業利益：100億円
- ROIC：6.7%

また、長期的な方針として資本効率の向上を最重要課題の一つと位置づけ、コスト構造の最適化及び意思決定・実行スピードの向上を継続的に進めてまいります。

さらに、ニッチトップ戦略に基づき、電力インフラ、医療機器、産業機器、防衛・宇宙分野といった高成長領域へ経営資源を重点配分します。

加えて、新技術の追求と適切な株主還元のバランスを図ることで、企業価値の持続的向上を実現し、早期にPBR1倍の達成を目指します。

中期経営計画2024-2026	中期経営計画2026-2028
構造改革 業務再構築 / 事業再編 コスト最適化 固定費削減 業務効率化 業務プロセスの簡素化 ポートフォリオ調整 産業用エレクトロニクス	ニッチトップ戦略 複数のニッチ市場でトップを目指す メガトレンド メガトレンドに即した用途市場での案件獲得 新事業 自社開発の独自技術を製品化 高資本効率 既存事業領域におけるキャッシュ創出力向上 高資本効率 損益分岐点改善と「転用」 売上高 FY2028 1650億円 (FY2025 ¥1471億円) 営業利益 FY2028 100億円 (FY2025 74億円) EPS FY2028 174.00円 (FY2025 109.47円) ROIC FY2028 6.7% (FY2025 5.4%)

2026年度見通し

本計画の初年度となる2026年度は、これまで実施してきた構造改革の成果を踏まえ、成長軌道への明確な転換点となることを見込んでいます。

- 売上高：1,560億円
- 営業利益：75億円

自動車市場の緩やかな回復に加え、電力インフラ、データセンター、エネルギー貯蔵システム等のメガトレンド分野の拡大、及びSchmidbauer社の通期寄与が成長を下支えする見通しです。

一方で、銅価格の変動や人件費の更なる上昇および外部環境の不確実性等にも引き続き留意し、収益性と資本効率を重視した規律ある経営を継続してまいります。

数値目標

売上高：1560億円
営業利益：75億円

今後注視すべきリスク要因

- 銅価格の変動リスク
- 人件費の上昇
- 継続するマクロ経済の不確実性



堀 寛二

CEO
スミダコーポレーション

二酸化炭素の排出削減のためのソリューション

way2zero

サステナビリティは、長年にわたりスミダグループの企業文化に深く根付いており、現在もスミダグループの中核的価値の一つです。創業70周年という節目を迎えるにあたり、私たちはこれを、顧客志向、革新性、挑戦する精神、尊重、ワークライフバランス、そして持続可能性といったコアバリューに導かれつつ、これまでの歩みを振り返ると同時に、より持続可能な未来を創造する機会と捉えています。

電力関連電子部品のメーカーとして、スミダグループは自社の技術がエネルギー効率の向上と低炭素社会の実現において重要な役割を果たしていることを認識しています。電動化及びデジタルインフラに対する世界的な需要が拡大し続ける中、スミダグループは製品及び事業活動の双方を通じて、サステナビリティ目標の達成に向けた取り組みを着実に推進しています。

「way2zero」イニシアティブのもと、スミダグループは持続可能な事業成長と環境負荷の責任ある管理の両立を目指し、サステナビリティの観点を戦略、意思決定、日常業務のあらゆる側面に統合しています。



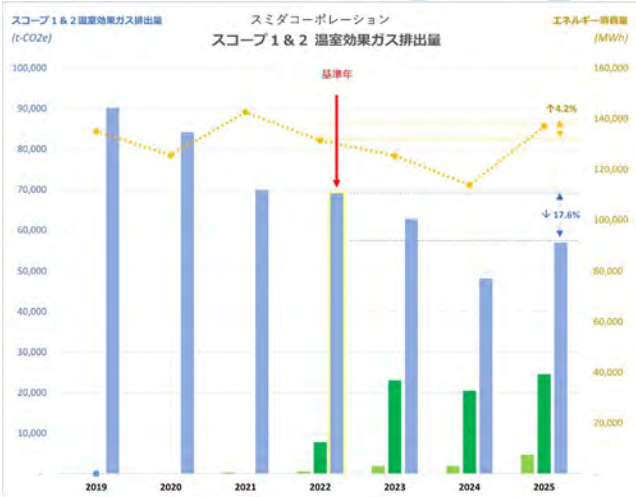
進捗状況

スミダグループは「way2zero」イニシアティブの実行において着実な進展を遂げており、目標達成に向けて順調に推移しています。2024年に開始したグローバルなアクションプラン策定を踏まえ、2030年までにScope1及びScope2排出量を42%削減（基準年：2022年）する目標に向け、各拠点ごとの具体的な施策を実行しています。

進捗状況は、Corporate Carbon Footprint (CCF) フレームワークを通じて厳格にモニタリングされており、すべての拠点において排出量及び対策の一貫した管理が行われています。

2025年においては、Scope1及びScope2の温室効果ガス排出量は前年比で増加しましたが、再生可能エネルギー導入の継続的な拡大に支えられ、2030年の削減目標達成に向けた軌道は維持しています。排出量増加の主因は生産量の増加によるものであり、一方でエネルギー効率の改善及び再生可能エネルギーの活用拡大が、全体への影響を抑制しています。

並行して、Scope3排出量への対応も着実に強化しています。顧客にとって製品カーボンフットプリント（PCF）の重要性が高まっていることを踏まえ、排出量分析、目標設定、サプライヤー及び顧客との連携に特化した専任プロジェクトを立ち上げています。



環境*	2021	2022	2023	2024	2025
エネルギー消費量 (MWh)	142,584	131,449	125,428	113,993	136,944
再生可能エネルギー消費量 (MWh)	5	7,839	23,090	20,473	24,558
スコープ 1 & 2 温室効果ガス排出量 (t-CO2e)	69,868	69,067	64,486	48,211	56,912
水消費量 (M litres)	713	898	990	823	627
有害廃棄物重量 (tons)	594	534	553	677	692
無害廃棄物重量 (tons)	2,981	2,943	3,278	2,927	2,784
ISO14001 認証を受けた事業所 (%)	90%	90%	90%	87%	80%
ISO14064-1 認証を受けた事業所 (%)	23%	23%	27%	30%	28%
ISO50001 認証を受けた事業所 (%)	5%	5%	5%	4%	4%

*この表のデータは調整される可能性があります。



CSR 活動報告

CATEGORY	GOAL
環境 地球とその資源を大切にする 	E1. 温室効果ガス排出のスコープ1, 2 & 3の削減目標を設定し、その達成に向けたアクションプランを策定する。 E2. スミダコーポレーションの環境に関連した年次CSR開示の透明性を向上させる。 E3. 温室効果ガス報告及び排出量削減のためのサプライチェーンへの働きかけ
社会 社会から尊敬される企業となる 	S1. 高い職場安全衛生の維持 S2. 「社会的責任のある」アプリケーションを目指す製品/技術の開発の優先 S3. 人材の多様性の促進 S4. サプライヤーおよび輸送業者との協力体制の下、サプライチェーンを通して責任ある事業の遂行 S5. コミュニティ参画/社会貢献 S6. オープンイノベーション研究の開発プロジェクト
ガバナンス 高い誠実性と持続力を備えた事業活動を行う 	G1. グローバルなスミダコンプライアンスシステムの強化 G2. マネージメントへの透明性の増進により企業価値の向上と持続可能な成長の達成

ACTIONS & STATUS
業界のサプライチェーンにおける私たちの立場は複雑であるため、新しい中期経営計画のために、実践的かつインパクトのある2方面からの計画アプローチをとる： 1) スコープ1とスコープ2（CCF） - スコープ1とスコープ2の温室効果ガス排出量を2022年度を基準として2030年度までに42%削減することを目指す。 - 全拠点における排出削減計画の継続的なモニタリング、レビュー及び調整 - 2022年を基準年として、2025年にスコープ1及び2の温室効果ガス排出量18%削減を達成 2) PCFとスコープ3 - スコープ3排出量データの継続的な収集及び更新 - 社内ITシステムにおける全製品のPCF（製品カーボンフットプリント）の定期的な算定 - 一次排出係数データソースの拡充 - 低排出の材料及び技術の活用拡大に向けたdesign4sustainabilityワークショップの推進 - 二次材料の使用比率の向上 CDPへの継続的な参加（2025年スコア：気候変動 C、水セキュリティ C） [継続中] サプライヤーに対して、GHG排出量の削減を検討し、CDPを通じて環境活動を報告するよう意識を高め、奨励する。 サプライヤーからの一次データ収集による排出係数データ品質の向上
【継続中】労働災害の最小化 [継続中]労働災害を最小限に抑えるため、安全衛生予防措置を確実に実施する。 グリーンエネルギー関連市場など、将来の成長市場に経営資源を集中・投下する。 [継続中] 女性管理職：≥20%、日本人以外の管理職：50%、中途採用管理職：≥ 80%、取締役会&委員会の構成 [継続中] 長期的な製品開発の見通しに焦点を当てた、技術系大学やパートナーとの共同研究プロジェクトを獲得する。 [継続中] 環境、労働、人権に関する要求条項を含む契約を結んでいるサプライヤーの意識と数を向上させる。 [継続中] 地域開発、環境保護、慈善活動、災害救援などのプロジェクトに地域社会と積極的に関わる。 [継続中] 長期的な製品開発の見通しに焦点を当てた、技術系大学やパートナーとの共同研究プロジェクトを獲得する。
- 各国拠点からのタイムリー又は定期的なコンプライアンス事案の報告 - 定期的かつ継続的な社内コンプライアンス研修実施とグローバルコンプライアンスガイドラインの見直し - 社外専門家を活用して取締役会実効性評価を継続実施する。 - 取締役会における活発な議論を推進するため、メンバーに対するタイムリーで適切な情報の提供 - 株主を含むステークホルダーの判断の助けとなる、分かり易いフォーマットで分かり易い表現を使ったタイムリーな情報の開示

低炭素・高度接続・スマート社会への貢献

サステナブルな未来のためのスミダの製品



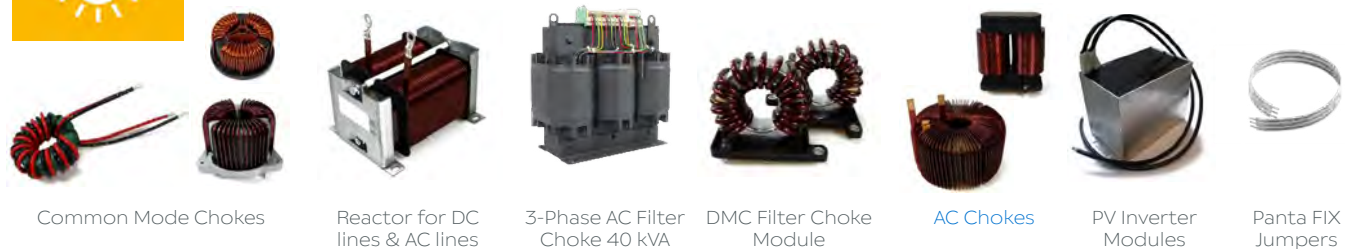
医療技術の高度化

診断機器、インプラント機器、治療システムに使用される高信頼性の磁気部品を通じて、生命を支える医療機器を支援しています。



クリーンエネルギーシステムの実現

太陽光、風力、エネルギー貯蔵システム向けに高効率な電力変換ソリューションを提供しています。



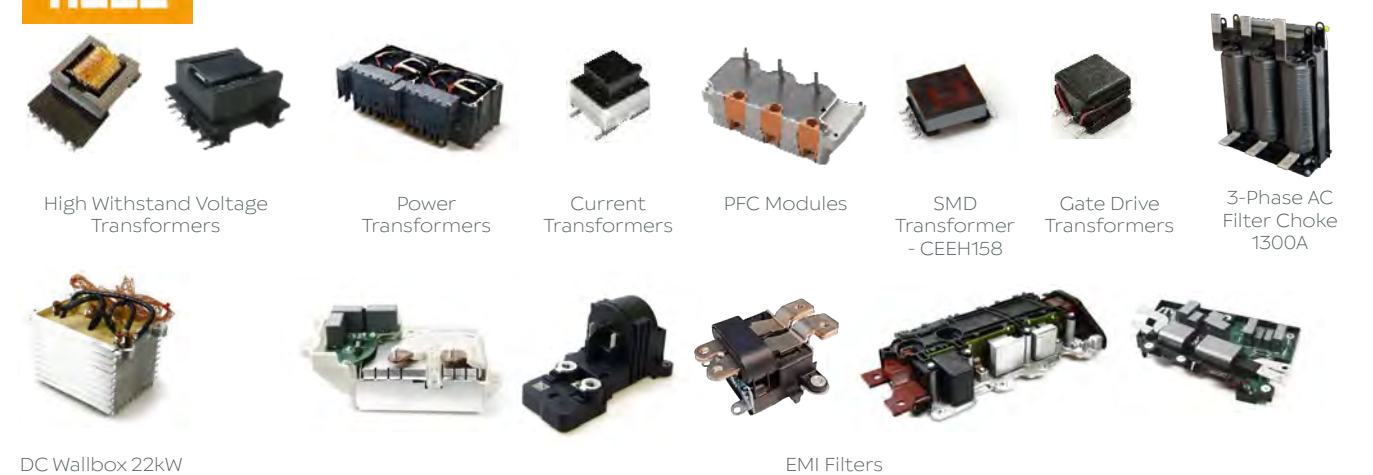
レジリエントなインフラとスマート産業の推進

効率的な電力管理、高速通信、安定した性能を実現する技術により、次世代の産業システム及びインフラを支えています。



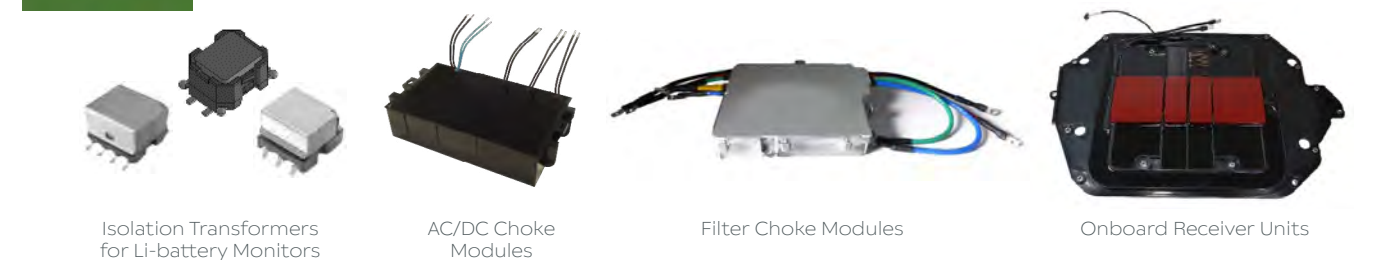
スマートで安全なモビリティの実現

高性能な磁気部品により、電動車両及び高度インフラの発展を支援しています。



電動化と脱炭素の加速

V2Gや先進的な電力システム等の技術を通じて、次世代エネルギーエコシステムの構築を支援しています。



Schmidbauer社の買収によるポジション強化

2025年10月、スミダグループはドイツ・ヘーベルツフェルデンに本社を置く高品質な変圧器及び電力ソリューションメーカーであるSchmidbauer社の買収を完了しました。同社は産業及びエネルギー分野において高い評価を有し、深い技術力と欧州における確固たる顧客基盤を有しています。

本買収により、スミダグループの電力関連技術における能力が強化されるとともに、電動化及びエネルギーインフラといった成長分野における競争力が向上します。Schmidbauer社の専門技術とスミダグループのグローバルな設計・エンジニアリング・製造ネットワークを融合することで、技術開発、製品ポートフォリオの拡充、市場アクセスの面で大きなシナジー創出を見込んでいます。

このパートナーシップは、高付加価値な産業分野におけるスミダグループのプレゼンス拡大に寄与するだけでなく、ニッチトップ戦略の実行を力強く支えるものです。2035年ビジョンである「複数のニッチ分野でのトップポジション確立」に向け、Schmidbauer社は重要な役割を担い、戦略的に重要な市場における差別化ソリューションの提供と持続的成長の加速に貢献してまいります。



Image of Schmidbauer's facilities in Hebertsfelden, Germany

電力業界向け製品



Transformers
up to 5.5 tons weight
/ 3,000kVA

Chokes (water-cooled)
up to 5kA

Active Cooled Inductors

AFE-Filters / Line-Filters

Mf-Transformers
up to 6kV partial discharge

展示会出展（Smart Energy Exhibition）

スミダグループは2026年3月17日から20日にかけて東京ビッグサイトで開催されたスマートエネルギー展に出展し、Bayern Innovativeとの共同ブースで参加しました。

本展示会は、日本のスマートエネルギー市場に向けてSchmidbauer社の製品ポートフォリオを紹介する貴重な機会となりました。

これは、グループ内シナジーを活用して新たな用途分野への展開及び新興市場における成長機会の獲得を図る取り組みの一例です。



（写真左から）
Klaus Neumeier執行役、小島勝幸執行役、
Dominik Reichl氏（Schmidbauer社 CEO）、竹島広松執行役

2025年度スミダCSR活動の紹介

スミダグループのCSR活動は、環境保護に関する取り組みをはじめ、従業員の健康・安全の向上、地域社会との関係強化、技術力の発信等、多岐にわたります。

以下は、年間を通じた主な活動の一部です。

安全・研修



ベトナム・ハイフォン工場における省エネルギー研修
メキシコ・グアダハラハラ工場における安全研修

従業員の健康



中国・吉安及び太平工場での健康診断

人材育成



中国・太平工場におけるAI活用実践研修及び新入社員育成プログラム

社内イベント



中国・太平工場での縄跳び大会
ドイツ・レーエステンでの5km社内ラン

業界活動



Dr. Michael SchmidhuberによるEPE 2025（パリ）での研究発表

地域貢献活動



中国・上海での植樹活動
日本・東京におけるJEITAとのものづくりワークショップ

最新企業情報



社外取締役による欧州拠点視察

2025年11月に、社外取締役が欧州の主要拠点を訪問し、工場視察及び欧州地域幹部との意見交換を実施しました。事業状況や課題に関する地域幹部からの説明について活発な質疑応答を行い、欧州事業の理解を更に深めました。当社は今後も、社外取締役による現地視察や現地との対話の機会を通じて、グローバル事業に対する更なる監督機能の強化とガバナンス向上に努めてまいります。



グループ内コンプライアンス研修

2025年も、当社グループ各国の拠点で、グローバルコンプライアンスガイドラインについてのコンプライアンス研修を実施いたしました。当年は、工場勤務の従業員を主な対象といたしました。本ガイドラインに示された原則、価値観、方針の更なる理解と実践を図るべく、このようなグループ内研修は今後も継続して実施いたします。



取締役（左から）： 范 仁鶴、土地 順子、本多 慶行、八幡 滋行、上野 佐和子、梅本 龍夫*、早川 亮、アルバート キルヒマン

*2026年3月26日に開催されました取締役会におきまして、独立取締役の梅本龍夫氏が取締役会議長に選出されました。



取締役会の実効性評価

2025年10月31日に、全取締役が出席し、取締役会の実効性評価の結果について議論を行いました。当日は大手法律事務所の弁護士にも参加いただき、外部の専門的知見を踏まえた活発な意見交換を実施しました。

当社は、取締役会が企業価値向上に向けて実効的に機能しているかを定期的に検証することがコーポレート・ガバナンスの強化につながると考えており、本実効性評価を重要な取り組みの一つとして位置付けています。

TCFDに基づく情報開示 - 気候変動に関するリスク及び機会

ガバナンス

当社グループでは年1回以上、気候変動を含む環境関連の進捗状況、計画及びリスクについて、代表執行役CEOがCSR委員会等の活動結果を取締役に報告し、取締役会において取締役が報告内容を踏まえて協議をしています。

当社のCSR委員会は製造の責任者を始めとして各地域のCSR関係者を中心に原則毎月開催し、温室効果ガス削減のモニタリングやESGレポートの作成を中心に活動しています。

リスク管理

当社では、スミダグループが、日本国内外における法令を始め、企業倫理、社内規程を遵守してスミダグループの経営・業務を遂行し、また健全なリスクテイクの妥当性の検証又はリスクの極小化等、スミダグループ運営上のリスク管理を徹底し、効率的かつ有効な経営を実現することを目的とする「コンプライアンス及びリスクマネジメント規程」を定めています。

当社では、代表執行役CEOがその任にあたるリスクマネジメント最高責任者により、リスクマネジメント委員会を組織しています。リスクマネジメント委員会は、リスクを「企業にとってマイナスの影響をもたらす事象、換言すれば企業に予想外の損失がもたらされる不確実性」と定義したうえで、スミダグループのリスクを効果的かつ効率的に洗い出し、そのリスクを最大限に抑制ないし回避することを目的としています。

同委員会での議論をより効果的なものとするために、3年に1度、リスクサーベイを実施し、その結果を基に損害規模と発生頻度を基準にしたリスクマップを作成し、事業の推進及び経営の意思決定に役立てるよう努めています。2025年度にリスクサーベイを実施し、リスクマップを更新しました。

また、CSR委員会において気候変動を含む環境関連のリスクや機会を識別し、その進捗状況について年1回以上の頻度で継続的に協議を行っています。

戦略

当社グループでは、TCFD提言に沿った開示を進めています。当社グループのCSR委員会において認識している気候変動に関するリスク及び機会は以下のとおりです。

気候関連リスク	リスクの概要	時間的視点
洪水	洪水発生リスクがある当社グループ拠点があるものの、過去の経験を踏まえ、洪水防止対策を講じて実施し、継続的にチェックしている（6ページをご参照願います）。	長期 (4～10年)
顧客行動の変化	当社グループの主要顧客は、GHGプロトコルの全3スコープにおいて積極的な温室効果ガス排出削減目標を掲げており、当社グループは、主要顧客から、排出削減目標と行動計画の策定を求められる。	中期 (1～3年)
リサイクル素材の含有率増加	再生材料の含有率が高い部品は通常、一次材料よりも温室効果ガス排出量が少ないため、顧客は、当社グループ製品における再生材料の割合増加を求めている。再生材料含有率の高い部品の技術的適合性に関する既存製品および新製品の認証にかかる時間とコストが、顧客要求の実現に関連するリスクである。	中期 (1～3年)
カーボン・プライシング・メカニズム	炭素価格設定は、購入する製品・サービスのコスト増加と自社運営コストの増加が見込まれるため、当社グループ製品のコスト競争力に影響がある。	中期 (1～3年)

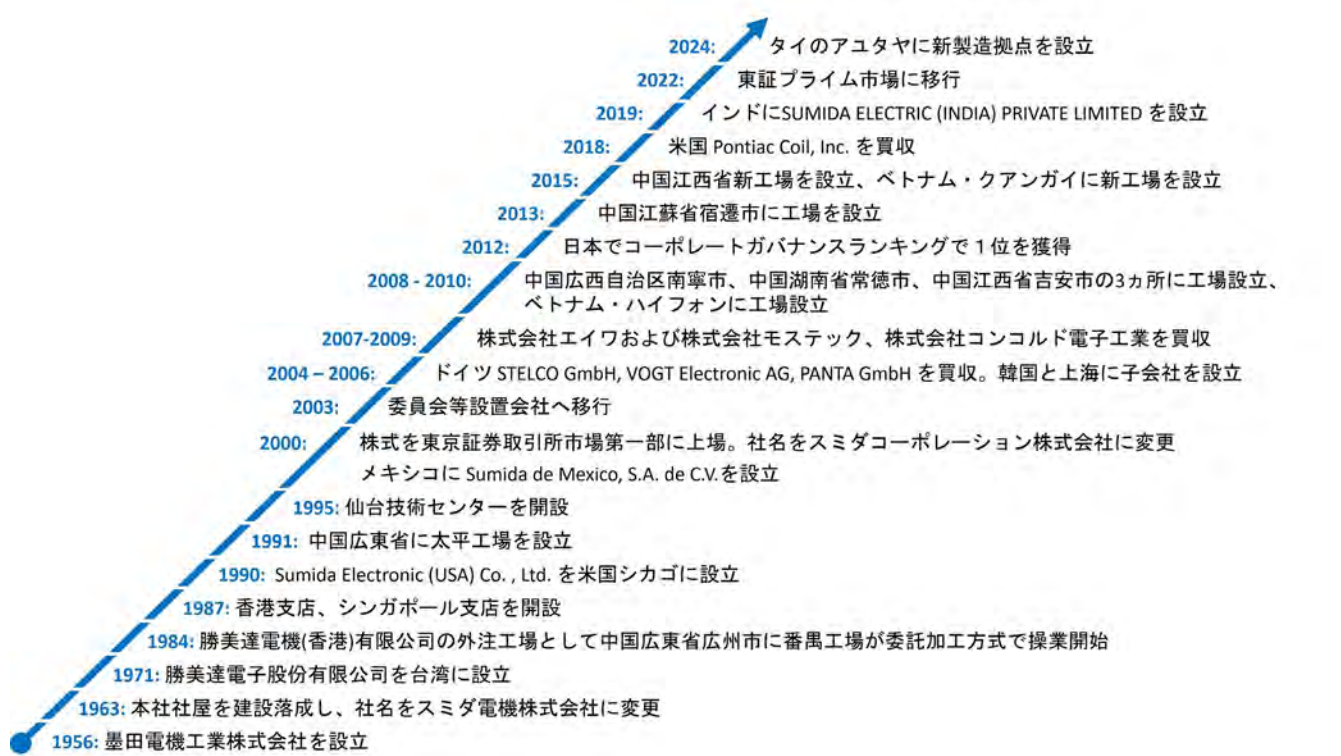
気候関連機会	機会の概要	時間的視点
既存製品の売上増加、R&Dとイノベーションによる新製品の開発	太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギーシステムへの世界的な潮流と、電気自動車やプラグインハイブリッド車などの新エネルギー車に対する需要の拡大により、電力変換システム向け部品・モジュール分野における当社グループ製品の需要が増加した。当社グループは、主要顧客と積極的に連携し、特にエネルギー効率と製品のライフサイクルにおける温室効果ガスの削減に重点を置きつつ、顧客の新製品・新システム向けカスタマイズ製品の開発を進めている。	中期 (1～3年)
再生材料の使用	再生材料使用の増加のため、サプライヤーとの協力により革新的な製品設計を行う。	中期 (1～3年)

 TCFD資料は、
ここをクリック

スミダの歴史



沿革



www.sumida.com

スミダコーポレーション株式会社

〒104-0042 東京都中央区入船三丁目7番2号 KDX銀座イーストビル7階
TEL: 03-6758-2470 FAX: 03-6758-2472